

# Cisco CRS サーバにログインしようとしたときに、SQLUtility セットアップが無期限に実行される

## 目次

[概要](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[表記法](#)

[問題](#)

[解決策](#)

[関連情報](#)

## 概要

高可用性クラスタ上で Cisco Customer Response Solutions ( CRS ) サーバをインストールした後、SQLUtility インストール プロセスが無期限に実行されます。クラスタのいずれかの CRS サーバにログインしようとするたびに、SQLUtility のインストール プロセスが開始されます。プロセスが完了したら、プロセスをキャンセルするまでインストールが再開されます。

## 前提条件

### 要件

次の項目に関する知識が推奨されます。

- Cisco Unified Contact Center Express
- SQL 2000
- Active Directory ( AD )
- DC ディレクトリ管理

### 使用するコンポーネント

このドキュメントの情報は、次のソフトウェアとハードウェアのバージョンに基づくものです。

- Cisco Unified Contact Center Express 4.0(x)**注:** この問題は、Cisco Unified Contact Center Express 4.0(x) にのみ適用されます。Cisco Unified Contact Center Express 4.5 以降には適用されません。
- SQL 2000

注: この問題は、IP IVR または IP QM には適用されません。

本書の情報は、特定のラボ環境にあるデバイスに基づいて作成されたものです。このドキュメントで使用するすべてのデバイスは、初期 ( デフォルト ) 設定の状態から起動しています。稼働中のネットワークで作業を行う場合、コマンドの影響について十分に理解したうえで作業してください。

## 表記法

ドキュメント表記の詳細は、『[シスコテクニカルティップスの表記法](#)』を参照してください。

## 問題

高可用性クラスタ上で Cisco Unified Contact Center Express 4.x サーバをインストールした後、SQLUtility インストール プロセスが無期限に実行されます。この問題は、Cisco Bug ID [CSCsc72942](#) ( [登録ユーザ専用](#) ) に記述されています。

CRS と共存する、または展開サーバ上の高可用性クラスタに SQL 2000 をインストールする場合、2 番目のサーバに SQL 2000 をインストールする前に、SQL 2000 がインストールされた 1 番目のサーバの設定を完了し、データストア コンポーネントを有効化する必要があります。この手順に従わない場合、SQLUtility プログラムが繰り返し実行されます。

## 解決策

この問題を解決するには、次の手順を実行します。

1. [Appadmin Control Center] から [Remove Server] を選択し、クラスタから 2 番目のデータベースサーバを削除します。
2. 1 番目の CRS サーバへの SQLUtility のインストールを実行します。
3. クラスタにノードを追加するため、2 番目のデータベースサーバで CRS インストーラを実行します。
4. 2 番目のデータベースサーバでサーバのセットアップを実行します。

[問題](#)のセクションで示したように CRS サーバのセットアップを行わない場合、この手順により、DC ディレクトリ環境でのこの問題は解決し、2 番目のノードに CRS を再インストールする必要はありません。

注: この手順は、Active Directory 統合システムには適用できません。

1. 2 番目の CRS データストア サーバの LDAP ( AD または DC ディレクトリ ) を開き、`ou=clusters`、`ou=<profile_name>`、`ou=Nodes`、`ou=<nodeid_secondserver>`、`ou=<NodeSpecific>`、`ou= Components`、`ou= <CRS Repository Datastore.XXXXXXXXXXXXXX>` にドリルダウンします。注: `profile_name` はクラスタのプロファイル名を表し、`nodeid_secondserver` は 2 番目の CRS データストア サーバを表し、`CRS Repository Datastore.XXXXXXXXXXXXXX` は CRS リポジトリ データストア文字列を構成する LDAP フィールド名を表します。
2. `CRS Repository Datastore.XXXXXXXXXXXXXX` を右クリックし、[Properties] を選択します。
3. [Modify] を選択し、`CRS Repository Datastore.XXXXXXXXXXXXXX` を `CRS Repository Datastore.XXXXXXXXXXXXXX.bak` に変更します。

4. 1 番目の CRS ノードで、SQLUtility のインストールを続行します。
5. 現在のデータベース サーバの SQLUtility のインストールが完了したら、2 番目の CRS データストア サーバの LDAP プロパティ フィールドの名前を元の名前：**CRS Repository Datastore.XXXXXXXXXXXXXX**に戻します。
6. 1 番目の CRS ノードの SQL データベースのアップグレードが完了したら、2 番目のサーバの SQLUtility を実行します。

## 関連情報

- [音声およびユニファイド コミュニケーションに関するサポート リソース](#)
- [テクニカル サポートとドキュメント – Cisco Systems](#)